

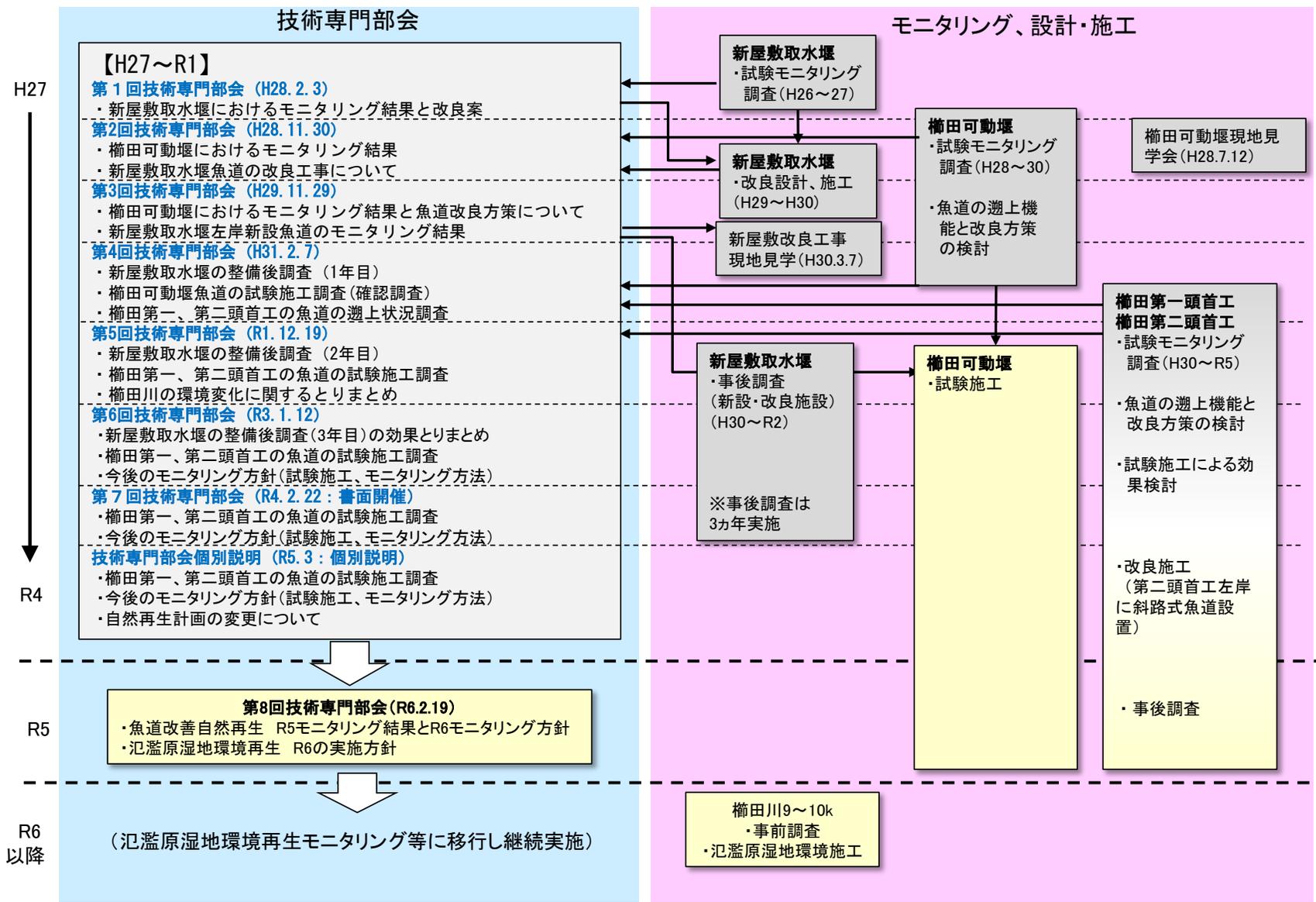
# 【技術専門部会報告】

令和6年3月

技術専門部会  
部会長 河村 功一

# 1. 技術専門部会の取り組み

- 縦断的連続性の再生に向けて、新屋敷取水堰、櫛田第二頭首工、櫛田第一頭首工、櫛田可動堰の魚道改良（簡易的な改良を含む）を行い、モニタリング調査を実施してきました。
- R6以降は、氾濫原湿地環境の再生を進めていきます。



## 2. 第8回技術専門部会の開催概要

- 第8回技術専門部会を令和6年2月19日に開催しました。自然再生モニタリング調査結果や次年度モニタリング方針について報告し、意見交換を行いました。

(1)日時：令和6年2月19日(月) 14:00～16:00

(2)場所：松阪市役所 地下会議室

(3)議題：

### ①魚道改善について

- 事務局より、『魚道改善自然再生』に向けた魚類の生息・産卵・遡上環境等のモニタリング調査結果について報告が行われました。
  - 遡上環境調査においては、櫛田第二頭首工・第一頭首工の簡易的な試験施工による魚道遡上効果が確認されました。
  - 生息環境調査においては、8月の台風による出水により、アユ等の生息分布に影響を及ぼしていることが確認されました。
  - 産卵環境調査においては、産卵数はR4に引き続いて少ない状況でしたが、新両郡橋で3年ぶりにアユ産卵が確認されました。
  - これまでのモニタリングにより遡上効果が確認されたことから、次年度以降はモニタリング調査を縮小することを確認しました。

(主な意見)

- 魚道改善により、アユやウナギの遡上量は増えていると感じる。
- 遡上期のモニタリングについても完全に終了とするのではなく、環境DNA調査等でも良いので、これまでのデータの蓄積もあることから、何等かの形で継続する方が良い。

### ②氾濫原湿地環境再生について

- 事務局より、次年度以降実施予定である『氾濫原湿地環境再生』に向けた進め方について報告が行われました。
  - 次年度は櫛田可動堰下流の9.6～9.8k左岸で工事を行うことを確認しました。
  - 工事前の事前モニタリングを実施することについて確認しました。

(主な意見)

- 樹林化が進むとカワウのコロニーができやすい。カワウが増えるとアユをかなり食べることになるので、樹林化対策が合わせてできると良い。

### ③今後の進め方について

- 事務局より今後の進め方について報告され、確認しました。



技術専門部会の開催状況